



横浜銀行 ニューヨーク駐在員事務所

週間トピックス Vol. 474 (2018. 6. 7)

<今週のトピックス>

Yellow-Cab と Uber

最近海外を旅行された方の中には、タクシーの代わりに Uber、Lyft、Juno といったライドシェアサービスを利用された方がいらっしゃるのではないのでしょうか。ライドシェアとは個人の自家用車を使った配車サービス（運転手が一般の個人）で、ニューヨークにおける登録車数は 70,000 台とも言われています。リムジンサービスが 30,000 台、タクシーが 17,500 台（このうち「Yellow-Cab」は 13,500 台）で、毎月新たに営業許可を受ける車両 2,000 台のうち大半がライドシェアサービス会社によるものというデータもあります。

利用方法は、Uber を例に挙げると、①スマートフォン等に専用アプリをダウンロードする、②名前、クレジットカード情報等をアプリで登録する、③現在地、目的地をアプリ上で入力し（この時点で金額が確定）、近くにいる Uber 登録車を待つ、④乗車時に目的地を告げる必要はなく、目的地に到着、降車後にチップの金額を入力して終了、という流れで、すべての手続きがアプリ上で完結します（このため「app-based vehicle」と呼ばれています）。

利用者、登録台数ともに増え続けているライドシェアサービスですが、ニューヨーク市では、「道路渋滞を加速させている」「タクシー運転手の賃金を引き下げている」といったことから、ライドシェアサービスに台数制限をかけるべきといった声があがっています。一方で、タクシー会社が「メダリオン制度」（タクシー免許証。メダルの形をしている）による供給制限で市民の需要に応えられなかった結果がライドシェアサービスを生んだ、といった意見もあるようです。



自家用車を所有しない世帯も多いニューヨーク市民にとってはどちらも地下鉄やバスにならぶ市民の足ですし、私自身も状況に応じてどちらのサービスも利用しています。両者の対立ではなく共存を目指してほしいと思いますが、いずれにしても、シェアリングエコノミーの象徴として、ライドシェアについて今後も注目していきたいと思えます。

【出所 The Wall Street Journal】

- ・本レポートは情報提供のみを目的として作成したものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。
- ・ご利用に関しては、すべてお客さま自身でご判断くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。
- ・本レポートは信頼できると思われる情報に基づいて作成していますが、当行はその正確性を保証するものではありません。
- ・本レポートのご利用によりお客さまがいかなる損失、損害を受けられても当行は一切の責任を負いません。
- ・本レポートはお客さま限りでご利用くださいますようお願いいたします。